

作りはじめてずっと取り組んできた動物シリーズ、15年目に新しく、釉色で大胆なデザインに挑戦しました。デザイナーとコラボした経験がTAKUNOBUさんの作風にも多大な影響を与えました。共同作業は綿密な技術と複雑な工程を要し、思考錯誤の積み重ね、難しいからこそ、挑戦してみるという精神で挑んだ大皿が完成しました。その時の経験や技術が新作のバステルカラー食器シリーズや市松模様の絵皿シリーズに取り入れられています。



作品への情熱

「日常で使いやすいものを作ることを心掛けています。目指しているのは食器棚で一番よく使用してもらえる食器」とのこと。完成した作品は必ずご自身で使い勝手を確認されています。取材の際、新作のコーヒーカップでコーヒーを頂きました。手に持った時の軽さや持ちやすさ、そして飲みやすさを体験。実際に手に取って、使い心地の良さに納得してほしいという想いに筆者も納得しました。

もう一つのこだわりは、卓上や部屋に馴染むようなインテリア性にも考慮したデザイン。TAKUNOBUさんの食器が魅力的なのは「作品の使いやすさ」と、空間に馴染むデザインとの両立にこだわった情熱の賜物なのです。

進化し続ける作品

今後したいことは「まずは、今作っている作品を直接、多くのお客様に見てほしい。直にお客様の意見を聞いて、そのヒントを今後の作品へ取込んでいきたい」とのこと。それと食材を盛り付けるプロの方やインテリア関係などの方とも親交を深め、意見交換の場を増やし、色々な場所や場面で使える作品を作っていきたいそうです。

新しい視点を取り入れて、今後も進化し続けるTAKUNOBUさんの作品に一度会いに来てみませんか？

今回のインタビュー記事の全文は、公式ウェブサイトにて公開しています。ぜひご覧ください。



特集期間

TAKUNOBU 特集
期間：2021年
6月3日(木)
-6月28日(月)
※火・水定休
協賛：
南丹市工芸家協会



イベント

- ①作家と一緒にコーヒータイム
6月13日(日)13-17時
作家自ら、お気に入りのコーヒーを煎れておてなし！
TAKUNOBUさんとお話できる貴重な機会です
- ②作家のうつつわでケーキセット
6月26日(土)10-17時
TAKUNOBUさんのうつつわと地元お菓子屋さんの
ケーキセットを用意します



インタビュー全文、体験の申込みなどは、わざどころPON公式webサイトまで

詳しくは
webで



「ものづくりのまち」発信拠点

「はと」に出会い、ギャラリーショップ

×
はとを学ぶレンタル教室

×
はとを学ぶデザイン事務所

<https://wazappon.link>

- 11-18時OPEN 定休：火水曜
- 第2・4土曜は天然酵母パンと無農薬野菜の日
- イベント、臨時休みはwebサイトで確認ください。



作家のうつつわで
カフェコーナー



技を学ぶ・伝える
レンタル教室

wazappon@gmail.com

090-7619-8673

〒629-0141

京都府南丹市八木町八木鹿草76-1
一般社団法人わざどころPON



LINE
@227cbmws

